

防火会報 2015

毎月1日は
防災の日です



(一社) 田川地区防災協会シンボルマーク

(一社) 田川地区防災協会

NO.41

- 発行 一般社団法人 田川地区防災協会
- 発行人 平田 篤三郎
- 印刷 尙溝口印刷 ☎42-2091



主な
記載記事

- 総会…3
- 火災と救急の概要…4
- 実施した防災事業…5

「香春岳及び福智山系」
写真撮影者 谷 融也

●平成26年度 全国統一防火標語

もういいかい 火を消すまでは まあだだよ

●平成26年度 危険物安全推進標語

危険物 読みはまっすぐ ゼロ災害



謹んで新年のお喜びを申し上げます



一般社団法人
田川地区防災協会
会長 平田 篤三郎

輝かしい平成27年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。会員の皆様方におかれましては、平素から格別のご支援とご協力を賜り衷心よりお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、幸いにして田川管内での大きな災害は無いものの、全国的に見ますと、8月の広島市での集中豪雨や多数の台風の影響、上陸、御獄山の噴火や長野県白馬村での地震と自然災害の恐ろしさと、その威力の凄まじさを痛感した年でありました。

このような中、近い将来発生すると予測されている首都直下地震、南海・東南海地震等巨大地震が発生した場合、関東から四国、九州にかけて極めて広い範囲で強い揺れが想定されています。

このようにどこで起きてもおかしくない災害に対するため、地域住民の協力体制が必要不可欠とされている。今、当協会は設立当初から自主防災組織として、「自分たちの地域や職場は自分たちで守る」という意識のもと、昨年は田川地区消防本部主催の総合防災訓練に、事業所会員とLPガス部会が参加し、災害時の対応について気持ちを新たにしたいと考えています。

また、高齢者宅での防火診断の実施をはじめ、各種事業を実施し、田川地区の防災体制の強化推進に取り組んできました。

今後とも、田川地区消防本部・署はもとより、各関係機関相互の融和強調を図り、地域防災拠点としての役割を果たせるよう防災力の向上に積極的に取り組む、意識を新たに防災活動を推進していきたいと考えています。

最後になりますが、この一年が災害の無い安全で安心な年でありますとともに、会員各位の益々のご発展、ご活躍と幸多き年となりますことをご祈念いたします。年頭のご挨拶といたします。



田川地区消防本部
消防長 壽浦 一成

平成27年の新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人田川地区防災協会会員の皆様方におかれましては、平素からの皆様方のご理解、ご協力を賜り、更なる消防行政にご理解、ご協力を賜り、更には地域防災に多大なご尽力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、国内各地で記録的な豪雨をもたらした「平成26年8月豪雨」をはじめ、9月の御獄山噴火災害、10月の台風18号、19号の相次いでの上陸、11月の長野県白馬村の地震と大きな自然災害が発生した年でありました。

特に、8月の広島市の豪雨災害では、想像を絶する豪雨により74名もの尊い命が奪われました。また、9月の御獄山噴火につきまし

ては、その破壊力のすさまじさと共に、日本列島における火山の噴火災害がいつ起きてもおかしくないことを痛感いたしました。その後の捜索においても災害救助の難しさを改めて思い知らされることとなりました。

幸いにして管内では大規模な自然災害等は発生していませんが、昨年の田川地区の火災件数は87件、救急件数が7,065件でありました。

消防の目的は、地域住民の安全安心な生活を守ることでありますが、これは決して消防本部だけでできることではありません。安全で安心の地域づくりのためには貴防災協会や消防団など防災関係機関との連携を図り、防災に関する地域コミュニティ体制を強化していかなくてはなりません。

住民一人ひとりの防災意識の向上が必要不可欠であります。自助・共助・公助が一体となつてこそ、災害に強い地域の実現につながるものと確信しております。

今後多くの方々と協力していきながらこの目的に邁進していく所存であります。

最後になりましたが、会員皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、新年のご挨拶といたします。



総 会

平成二十六年年度総会は、多数の来賓を迎え開催されました。議決された内容は次のとおりです。

- 一 平成二十五年度一般社団法人田川地区防災協会収支決算の承認について及び監査報告について
- 二 役員を選任について

一般社団法人田川地区防災協会定時



防災功勞表彰を受けられた方は次のとおりです。

平成 26 年度の定時総会が、平成 26 年 5 月 29 日(木)ザ・プリティッシュヒルズにおいて開催されました。

平成 25 年度収支決算などの上程された議案はすべて議決されました。

また、議案審議に先立ち防災功勞による表彰の授与も行われました。

防災功勞表彰 (会長表彰)

● 防火優良事業所

- 中村産業(株)
- 香石炭化学工業(株)
- 末原産業(株)
- 木村石油(株)
- 株式会社 キノシタ
- 平松地区
- 日本郵便(株) 油須原郵便局
- 医療法人 恵和会
- 介護老人保健施設 慈恵苑
- 医療法人 新光園 英彦山病院

● 優良危険物取扱者

- 小野 祐土 (田川農業協同組合)
- 原田 篤 (原田電気)
- 川上 浩二 (高柳石油)

● 優良消防設備業者

- 有限会社 石見商会

● 優良消防設備士

- 松家 修司 (松家電気)
- 藤浦 壽 (藤浦設備)

● 優良防火管理者

- 滝口 憲治 (医療法人 和光会 一本松すずかけ病院)
- 櫻本 公紀 (日立化成オートモーティブ プロダクツ(株))
- 中上 吉哉 (社会福祉法人 慈光会 特別養護老人ホーム 愛寿園)

● 優良業務主任者

- 稲垣 登名男 (稲垣商店)
- 野村 真治 (三共燃料)

今年度理事の変更と新たに選任された監事は次のとおりです。(順不同敬称略)

理事

- 古賀 洋介 (松尾製菓(株))
- 林 一成 (太陽セランド(株))

監事

- 大澤 俊朗 (マルヅガス筑豊(株))
- 園田 均 (藤石油)
- 花村 豊秀 (位登産業(株))



月刊フェスク 12 月号掲載写真

一般財団法人全国危険物安全協会から消防庁長官表彰を受賞



当協会の会長 平田篤三郎氏が、一般財団法人全国危険物安全協会から、一般社団法人田川地区防災協会の育成と地域住民への防災思想の普及にご尽力され、その重責が認められ、消防庁長官表彰を受賞しました。

一般財団法人日本消防設備安全センターから消防設備保守関係者理事長表彰を受賞



当協会の副会長 川端喜美男氏が、一般財団法人日本消防設備安全センターから、永年にわたり、消防設備等の適正な設置、維持管理の適正化等が認められ、理事長表彰を受賞しました。

(平成26年中)

田川地区の火災・救急の概要

火災

平成 26 年中の火災件数は 87 件であり、昨年の 87 件と比較すると増減はありません。

火災による損害額は、88,456 千円で、前年と比べて 43,754 千円の減少となっており、損害額の 99% は建物火災によるものです。出火原因は、火入れが 14 件と最も多く、放火（疑い含む）が 13 件、たき火が 11 件となっています。

特に放火は、毎年上位となっています。家の外周に燃える物を置かないことが大切です。

順位	出火原因											不明		
	1	2	3	4	5	6	6	8	8	8	8			
総件数	火入れ	放火(疑いを含む)	たき火	こんろ	火遊び	電気機器	電灯・電話等の配線	風呂かまど	ストーブ	排気管	たばこ	焼却炉	その他	合計
	14	13	11	6	3	2	2	1	1	1	1	1	11	20

火災の前年比較表

区 分	平成25年中	平成26年中	増 減	
火 災 件 数	87 件	87 件	0 件	
焼 損 面 積	建 物	1,955 m ²	1,496 m ²	-459 m ²
	林 野	101 a	14 a	-87 a
焼 損 棟 数	37 棟	46 棟	9 棟	
り 災 世 帯 数	20 世帯	32 世帯	12 世帯	
り 災 者 数	58 人	61 人	3 人	
死 者	5 人	1 人	-4 人	
負 傷 者	3 人	5 人	2 人	
損 害 額	132,210 千円	88,456 千円	-43,754 千円	
全火災の1件あたりの損害額	1,520 千円	1,017 千円	-503 千円	
建物火災 焼損面積	70 m ²	45 m ²	-25 m ²	
	1件当り 損害額	4,675 千円	2,662 千円	-2,013 千円
1ヶ月当りの火災件数	7.2 件	7.2 件	0 件	
出 場 人 員 (延)	788 人	907 人	119 人	
備 考	平成 26 年中の火災件数及び損害額 (内訳)			
	建 物	33 件	87,857 千円	
	林 野	5 件	0 千円	
	車 両	6 件	498 千円	
	その他	43 件	101 千円	
	(爆発)	0 件	0 千円	

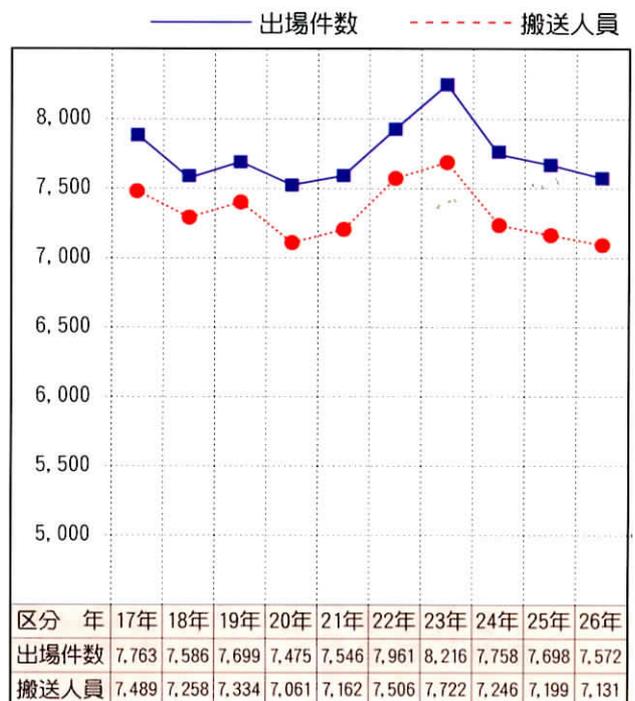
救急の前年比較表

区分	前 年 対 比			平成 26 年 救急出場別	
	平成25年	平成26年	増 減		
出 場 件 数	7,698	7,572	-126	平成 26 年 救急出場別	
救 急 件 数	7,129	7,065	-64		
搬 送 人 員	7,199	7,131	-68		
事 故 別	平成25年	平成26年	増 減	構成率%	順位
急 病	4,731	4,554	-177	60.14%	1
転 院	1,102	1,127	25	14.88%	2
一 般 負 傷	938	982	44	12.97%	3
交 通 事 故	486	501	15	6.62%	4
そ の 他	286	239	-47	3.16%	5
自 損 行 為	70	72	2	0.95%	6
加 害	33	44	11	0.58%	7
労 働 災 害 事 故	30	26	-4	0.34%	8
運 動 競 技 事 故	12	20	8	0.26%	9
水 難 事 故	9	4	-5	0.05%	10
火 災	1	3	2	0.04%	11
自 然 災 害 事 故	0	0	0	0.00%	
一日平均件数	21.1	21			

救急

平成17年以降、10年間の救急出場件数の推移は下表のとおりであります。

1日平均では、21の出場件数になっています。



実施した防災事業

平成 26 年中

災害の未然防止を図るために、消防機関と協力して本年も各種事業を実施しました。多くの人が安心して暮らせる田川を目指して、防災の輪を広げる活動を行っています。

防火診断を実施

当協会では、秋季全国火災予防運動期間に併せて高齢者家庭の防火診断を行いました。

防火診断では、ガスコンロや石油ストーブ等の火気の取り扱いや、コンセントのタコ足配線等について点検を行いながら、世間話を交えて火災予防についての話をしました。

防火診断の結果、タコ足配線をしている世帯が多く見受けられました。これは、近年家庭用電気製品の普及に対して、古い家はコンセントの数が少ないことが原因であると思われます。これについては、タコ足配線の危険性を説明し、必要な器具だけを接続するようにお願いしました。

このように、高齢者家庭の防火診断は、火災予防に大変成果が上がっている事業です。

また、防火診断後に記念品として多機能防災ラジオ（電波時計付）を贈呈しました。

危険物取扱者試験準備講習会を実施

当協会では、毎年3回実施される危険物取扱者試験の受験者を対象とした試験準備講習会を実施しています。受講者は、次のとおりです。

- ・危険物取扱者試験準備講習会
- 2月9日(日) 24名
- 6月1日(日) 11名
- 10月5日(日) 23名

役員視察研修

平成26年度の役員視察研修は、10月21日に実施し、17名の役員と2名の来賓及び事務局3名が参加しました。

今年度は、



福岡市が管理する山王調整池を視察し、山王公園周辺での浸水対策である、グラウンドや地下調整池を見学し、近年の集中豪雨はすさまじいものであり、その対策にいち早く取り組んだ施設に役員一同大いに興味を持っていました。

福岡市民防災センターでは、水害体験を行いました。水害にあつた場合には逃げるのが困難なこと、水害箇所及びおそれのある箇所には近づかないという指導を受けました。

次に、福岡市博物館では、九州仏（千二百年の祈りとかたち）展が開催され九州は古くから大陸と畿内の双方の影響を受け、他の地域にはみられない独自の仏教文化を育んだ仏像約百点を見学しました。

火災予防運動を協賛

3月・11月

当協会では、春季及び秋季の火災予防運動の協賛を行なっています。

田川市内のサンリブ田川店と川食食彩館 池尻店で実施し、チラシ配布による火災予防啓発



を行ないました。その後、防火演奏を行なった保育園等に記念品を贈りました。

田川地区総合防災訓練に参加

平成26年10月26日に行われた田川地区総合防災訓練に当協会も協賛しました。

また、会員である田川医師会、九州電力㈱が個別に参加するとともに、部会としてLPGガス部会が訓練に参加しました。

LPGガス部会によるガス施設応急復旧訓練



お 知 ら せ

平成 27 年度の各種資格取得試験及び講習会の予定をお知らせします。会場の都合により変更する場合がありますため、消防本部予防課内の事務局で確認して下さい。

●危険物取扱者試験

- 第 1 回 平成 27 年 6 月初旬頃
願書受付期間
- 第 2 回 4 月中旬から 4 月下旬まで
平成 27 年 10 月下旬頃
願書受付期間
- 第 3 回 8 月中旬から 8 月下旬まで
平成 28 年 2 月下旬頃
願書受付期間
- 12 月中旬から 1 月上旬まで

協会では、それぞれの試験日にあわせて、乙種 4 類の試験準備講習会を実施する予定です。
危険物取扱者試験は、県内 4 会場で

住宅用火災警報器を 取り付けましょう！



火災により発生する煙を自動的に感知し、逃げ遅れなどからの被害を無くすために、住宅用火災警報器の設置が義務づけられています。

田川地区の設置率は、全国平均よりも低いいため、火災から大切な家族の命を守るために設置を心がけましょう！

また、電池の寿命は 10 年が目安です。電池を交換するか、新しい住宅用火災警報器に取り換えてください。

悪質な訪問販売にご注意！！

なお、消防職員を装ったの販売や、高額請求など悪質な訪問販売の被害が発生しています。

消防職員による販売や、消防署が特定業者に販売を依頼することはありません。

実施されますが、筑豊地区は田川市の福岡県立大学が会場になります。

●消防設備士試験

- 第 1 回 福岡市・田川市
平成 27 年 7 月中旬頃
- 第 2 回 北九州市
平成 27 年 8 月上旬頃
- 第 3 回 福岡市・田川市
平成 27 年 12 月中旬頃

●危険物取扱者保安講習

平成 27 年 10 月 27 日・28 日
筑豊地区会場は、直方市（直方中央公民館）を予定しています。

受講者はいずれかの日に 3 時間の受講が必要です。危険物取扱作業に従事している次のような人が受講対象となります。

- ① 継続して危険物取扱作業に従事している者は、前回の講習を受けた日以後の最初の 4 月 1 日から 3 年以内。
- ② 新たに従事する者は、従事することとなった日から 1 年以内。ただし ③

に該当する者は ③ による。
③ 過去 2 年以内に免状の交付又は講習を受けている者は、免状の交付又は受講した日以後の最初の 4 月 1 日から 3 年以内。

※危険物取扱作業に従事していない人は受講の必要はありません。

●消防設備士法定講習

平成 27 年 10 月 12 月（未定）
消火設備 1 日
警報設備 1 日
避難設備 1 日

筑豊地区の会場は、田川市を予定しています。

- ① 消防設備士免状の交付を受けた日から 2 年以内の人
- ② 前回の講習を受けた日から 5 年以内の人

●防火管理講習会

消防法により建物の所有者などの管理権原者は、火災から人命を守るために防火管理者を定め、防火管理業務を行わせなければなりません。この防火管理者の資格は、2 日間の講習を受けることにより取得できます。

- ① 田川地区消防本部
平成 27 年 6 月頃
- ② 県立飯塚研究開発学習センター
平成 27 年 5 月頃
9 月頃
- ③ 直方市中央公民館
平成 27 年 2 月頃

※再講習（1 日）
筑紫野市生涯学習センター
平成 27 年 2 月頃

編 集 後 記

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

この会報も今回で第 41 号となりました。会報発行にあたり会員の皆様にご協力いただき、心よりお礼申し上げます。本年もよろしくお願い致します。



一般社団法人
田川地区防災協会
へのお問合せ

事務局 田川市大字川宮 1570 番地
田川地区消防本部予防課内

☎ 0947-44-0650 (内線 133)
☎ 0947-44-6256 (直通電話)

事務局長 古谷 雅孝
事務局 谷 融也
事務局 浦野 晃一
事務局 浦川えみ子